

(1) 大会報告予稿投稿原稿 (PDF 形式)

- ① ワードプロ使用，横書き，A4 用紙。6 枚以内（厳守）とする。各ページには上下左右に 3 cm 以上の余白を取る。
- ② 予稿 1 ページ目に著者名を記載し，著者情報（所属先とメールアドレス）を著者名脚注に記載する（著者が複数の場合，著者順に全て記載し，アルファベットをふる）。
- ③ 日本語予稿の場合，40 字 /行×33 行/頁とし，文字フォントは 10.5 ポイント明朝体フォント，英数字には Times New Roman を用いる。
- ④ 英語予稿の場合，シングル・スペースとし，フォントは 11 ポイントの Times New Roman を用いる。
- ⑤ 予稿の 1 ページ目には，予稿名と要約（日本語予稿の場合は 400 字以内，英語予稿の場合は 200 words 以内），JEL 分類番号（3 つ以下，<https://www.aeaweb.org/jel/guide/jel.php>），キーワード（5 つ以下）を記載する。本文は 2 ページ目から始める。
- ⑥ 日本語予稿の場合，句読点は，カンマ「，」及びピリオド「。」（全角）を用いる。また，丸括弧は全角とする。
- ⑦ 日本語予稿の場合，基本的に文中の数字（暦の表記や数値のデータ等）は半角とし，文章の一部にあたる数字は全角とする。例えば，2010 年の数字は半角，第 1，第 2 などは全角とする。
- ⑧ 本文中に文献を引用する際は，以下に従うこと。

● 著者が 2 名の場合

著者が日本名の場合，姓のみ全員記載し，中黒「・」で区切る。

例) 「田中・山本 (2025) は...」, 「...している (田中・山本, 2025).」

英語文献では，and を用いる。

例) 「Tversky and Kahneman (1992) は...」 「...している (Tversky and Kahneman, 1992)」

● 著者が 3 名以上の場合

著者が日本名の場合，姓のみ全員記載し，中黒「・」で区切る。

例) 「田中・山本・鈴木 (2025) は...」, 「...している (田中・山本・鈴木, 2025).」

英語文献では，筆頭著者のみを記載し，「et al.」で省略する。

例) 「Camerer et al. (2005) によれば...」 「...している (Camerer et al., 2005).」

- 著者名が同じで出版年が違う複数の文献を一度に引用する場合は，出版年はひとつのカッコ () にカンマ (,) で区切って記載する。著者名が異なる複数の文献を一度に引用する場合は，著者

名のアルファベット順にセミコロン（;）で区切って記載する。セミコロンは日本語予稿の場合は全角，英語予稿の場合は半角を用いる。

例) 「田中・山本・鈴木 (2003, 2004)」

「...している (田中, 2003 ; 鈴木・山本, 2004 ; Yamamoto and Tanaka, 2005).」

⑨ セクション番号は以下に統一する。

セクション 1.

サブセクション 1.1.

サブサブセクション 1.2.1.

⑩ 数式の書体はイタリックとし，変数など数式の一部を文中に引用して記載する場合もその書体はイタリックとする。数式の後には句読点をつけ，右端に番号を記載する。

例) $y = x$, (1)

⑪ 図と表については，以下 1～5 に従うこと。

1. 図と表には，必ず番号とタイトルを付ける

例) 「図 1 喫煙量と幸福度」；「表 1 実験結果の記述統計量」。

2. 図のタイトルは，図面の直下に記載し，表のタイトルは，表の直前に記載する。

3. 図の番号は，図 1，図 2...とし（数字は全角），英語予稿の場合は，Figure 1, Figure 2...とする（数字は半角）。表の番号は，表 1，表 2...とし（数字は全角），英語予稿の場合は，Table 1, Table 2...とする（数字は半角）。

4. 図表は，予稿中の該当する箇所に挿入する。

5. 図表中で使用の文句読点も本文と同じように，カンマ「,」及びピリオド「.」を用いる。

⑫ 注は脚注とし，日本語予稿の場合は本文の該当箇所の句読点の直前の右上に通し番号を付ける。英語予稿の場合は本文の該当箇所の句読点の直後の右上に通し番号を付ける。

日本語予稿の例：統計的に有意であることがあきらかとなった¹¹。

英語予稿の例：...as body mass is an optimal outcome of rational decision makings.¹

⑬ 付録や補論は引用文献の前におき，「付録」としてまとめる。英語予稿の場合は

「Appendix」とする。付録が複数ある場合は，付録 A., 付録 B., 付録 C. ...とする。英語予稿の場合は，Appendix A., Appendix B., Appendix C. ...とする。

⑭ 文献は巻末に「引用文献」としてまとめ，著者の姓に基づき，日本語・英語文献を区別せず，アルファベット順にソートする。著者が 3 名以上いる場合でも，略さず全著者を記載し，カンマ「,」で区切る。英名は，著者が 2 名の時はand で記載，3 名以上の場合にはカンマ「,」で区切り，最後の著者名の前にand を付ける。なお，ファースト・ネーム及びミドル・ネームはイニシャルで表記する。

● 論文の場合

著者名， 出版年． 論文名． ジャーナル名 巻， ページ．

例) Becker, G.S. and K.M. Murphy, 1988. A theory of rational addiction. Journal of Political Economy 96, 675-700.

*論文名（英語）はタイトルの頭文字だけ大文字にする。 但し、ジャーナル名（英語）は文字毎に大文字にする。

● 編集された本に掲載の論文の場合

著者名，出版年．論文名．編者名，書名（編集名）．出版社，出版地．

例) 池田新介，2003．合理的習慣形成理論．小野善康，中山幹夫，福田慎一，本多佑三編，現代経済学の潮流 2003．東洋経済新報社，東京．

例) Carroll, C. D., 2000. Why do the rich save so much? J. B. Slemrod ed., Does Atlas Shrug? The Economic Consequences of Taxing the Rich. Harvard University Press, Cambridge, US.

● 本の場合

著者名，出版年．タイトル．出版社，出版地．

例) Ainslie, G., 2001. Breakdown of Will. Cambridge University Press, Cambridge, UK.

*本のタイトル（英語）は単語毎に大文字にする。

● 翻訳書の場合

原著者姓，名．（翻訳書刊行年）．翻訳書籍名（翻訳者姓名）．出版社．（Original work published 原書刊行年）

例) セイラー，リチャード．，サンスティーン，キャス．（2022）．NUDGE 実践 行動経済学 完全版．（遠藤真美 翻訳） 日経 BP．（Original work published 2021）

● 調査報告・データの場合

著者名（団体の場合は団体名），発行年．文書タイトル．（ウェブサイトの場合はこの後に URL を載せる）

例) 日本証券業協会，2009．個人投資家の証券投資に関する意識調査（平成 21 年 11 月）． http://www.jsda.or.jp/html/chousa/kojn_isiki/h21-2.pdf

* タイトル（英語）は単語毎に大文字にする。

(2) 最終原稿

- ① 希望者は，大会終了後に，口頭報告として採択された報告論文予稿を投稿規定にそって『行動経済学』誌に投稿することができる。投稿された予稿は、『行動経済学』誌の大会プロシーディングスとして J-STAGE にて公開する。
- ② 最終原稿の投稿規定は、『行動経済学』投稿規定15.. 執筆要領 (2) 最終原稿 (<http://www.abef.jp/journal/submission-regulations/>) の通りとする。